

## 整形外科 初期研修プログラム

【研修責任者】 中山 憲

### 【一般目標】

将来整形外科医になるかどうかは別として、足腰の健康は健康な生活を営む基礎となるものである。したがって脊椎、骨盤、四肢の疾病、外傷に関しては、少なくとも診断、初期対応についての知識、ベッドサイドで実施できる程度の処置技術の習得は医師として必須のものである。

### 【行動目標】

1. 脊椎、骨盤、四肢の疾患、外傷についての総説的な知識を持つ。
2. 脊椎、骨盤、四肢領域の外傷に対するトリアージおよび初期治療ができる。
  - 2-1 適切な問診により受傷機転と外傷程度の大まかな把握ができる
  - 2-2 診断を確定するための臨床所見をとり、適切な検査の指示ができる。
  - 2-3 画像や検査の所見の解釈ができる。
  - 2-4 治療計画を立てることができる-入院すべきかの判断、オンコール専門医への適切な情報の提供
  - 2-5 簡単な整復処置、ギプスをはじめとする外固定ができる。
3. 脊椎、骨盤、四肢の慢性疾患において治療の適応、予後についての一般的な知識を持つ
  - 3-1 問診と臨床所見を適切にとることができる-心配なだけか、本当に困っているのかを見分ける。
  - 3-2 患者の障害を Impairment, disability, handicap に分けて把握できる。
  - 3-3 診断を確定するための検査を指示でき、その結果の解釈ができる。
  - 3-4 適切な治療法を選択できる。
    - 3-4-1 広く受け入れられている治療法について適応と禁忌について知る。
    - 3-4-2 一見魅力的にみえる超先進的なものについて物事をわきまえた考えを持つ。
  - 3-5 治療の前後で患者の何が改善したのか評価できる。
  - 3-6 感染予防についての知識、実践について習熟する。
4. 整形外科におけるリハビリテーションについて把握している。
  - 4-1 治療法に応じた適応と禁忌について知っている。
  - 4-2 PT, OT と共同して適切なリハビリテーションを処方できる。
5. 医師としての noblesse oblige を自覚し日々の言動に気を遣う。
  - 5-1 患者家族への接遇に威厳と思いやりを以て臨むことができる。
  - 5-2 クレイマー、暴力行為に毅然として態度で臨むとともにスタッフに適切な対処を指示できる。

## 【方略】

1. 指導医の監督のもと新入院患者の病歴聴取，理学所見をとり，検査計画を立てその結果を解釈し，適切な治療計画を立てる。
2. 週1回の術前後検討会に受け持ち患者について発表する。
3. 週1回の病棟総回診に参加。すべての患者について少なくとも診断名と治療法について理解を深める。
4. 指導医の監督のもと手術の助手に入り，基本的な整形外科手術手技を学ぶ。
5. 二次救急の日は上級医とともにオンコールをこなす。二次救急日以外も上級医の指導のもと積極的に救急診療に参加する。
6. 新患外来患者の病歴聴取，理学所見をとり，検査を指示し，指導医とともに治療計画について議論する。
7. 週1回程度抄読会にて文献を読む。
8. 月1回市内整形外科医の勉強会に参加する。興味深い症例があればプレゼンテーションをする。
9. 県内の研究会に適宜参加する。